

# news.

すでにデータ通信網をもっている大手企業のプロバイダー参加が相次いでいる。専用線に比べて安価なダイヤルアップサービスは、LANから接続するネットワーク型や、ISDN同期64Kbps対応へと拡大されてきた。

## 6月から2つのプロバイダーがサービス開始 NTTデータ通信「InterVia」、日立「netSpace」

特別第2種通信事業者であるNTTデータ通信は、顧客の要望に応え、インターネット接続サービス「InterVia（インタービア）」を6月1日よりスタートする。サービス品目は、専用線接続サービスとダイヤルアップIP接続サービス。専用線は64Kbpsから256Kbpsまでで、初期費用はスピードによって60,000円または100,000円、月額基本料金はルーター込みで64Kbpsの350,000円から256Kbpsの850,000円まである。ダイヤルアップは初期費用30,000円で、月額基本料50,000円。企業のインターネットビジネスの企画立案、システム開発、ネットワークの保守運用まで請け負うインターネット・ソリューション・サービスの1つとして提供するもので、このInterViaのほかに、WWWサーバーの構築サービス「InterServ（インターサーブ）」やファイアウォールの構築、大手町のNOCにあるデータベースサーバーを共同利用できる共用サーバー提供サービスなどもある。

同じく6月1日より、日立製作所もプロバイダーサービスを開始する。サービス名称は「netSpace（ネットスペース）」今年2月に暗号化技術を採用してスタートした

インターネット・ソリューションサービスを体系化、そのメニューとして位置づけている。専用線接続、ダイヤルアップ、UUCPのほか、個別の見積りにより、ビジネスに利用できるインターネット上の「仮想都市」を構築・運営してくれる「インターネット仮想都市サービス」や、WWWスペースサービスも提供する。専用線の料金は初期費用50,000円、月額基本料金がアナログ3.4KHzの150,000円からある。ダイヤルアップは個人会員が初期費用10,000円、年間38,000円固定。法人会員は初期費用30,000円、月額利用料は68,000円の

固定制が1分20円の従量制のいずれかを選択できる。

同社では、WWWの操作性で利用できる文書管理システムや、Windows用のインターネットナビゲーションツール「Netscape Network Navigator」も単体発売する。これは同社が販売する「LAN Work Place」へのバンドル提供も予定している。

問い合わせ InterVia  
NTTデータ通信(株) ネットワークコンピューティング事業部 TEL03-5546-8781

問い合わせ netSpace  
(株)日立製作所 情報事業本部 ソリューションビジネス推進本部 VAN事業推進部  
TEL03-5471-8932

### NTTが専用線料金改訂案申請

プロバイダーの専用線サービスを利用するにはNTTなどの電話会社に専用線を申し込み、NOCからの距離に応じて毎月一定料金を支払わなければならない。NTTでは、この専用線サービスの料金体系を見直し、改訂案を郵政省に認可申請している。高速デジタルサービス全体としては20%の値下げになっているが、近距離は若干高くなっている。料金の変更案は以下の通り。

#### 64Kbps

15kmまで：42,000円から77,000円に  
(ただし改訂後1年は60,000円)

30kmまで：100,000円から113,000円に  
(ただし改訂後1年は107,000円)

40kmまで：158,000円から129,000円に

#### 128Kbps

15kmまで：67,000円から90,000円に  
(ただし改訂後1年は79,000円)

30kmまで：165,000円から142,000円に  
40kmまで：245,000円から149,000円に

値上げになっている近距離64Kbpsは専用線サービスで最も人気のある品目である。インターネットマガジンではこの料金案について、次号で詳しく考察する予定である。

### InfoWebがネットワーク型 ダイヤルアップ開始

企業向け専用線サービスの大幅値下げを行うなど、このところサービスのリニューアルを図っている富士通のInfoWebが、今度は企業向けの安価な接続サービスとして、ネットワーク型のダイヤルアップサービスを開始した。企業内のLANから必要なときにISDNを使ってインターネットへ接続するもので、加入料は50,000円、月額接続料は150,000円の固定料金制になっている。通信速度は専用線サービス並みの64Kbpsが利用できる。

4月21日から東京ですでに開始しているほか、6月下旬から大阪、9月末までに札幌、仙台、富山、川崎、名古屋、広島、福岡の各都市に接続ポイントを開設する予定。

問い合わせ 富士通(株)アウトソーシング  
事業部インターネット販売推進部

TEL 03-3437-5256

### NECのmeshが料金値下げ LAN型ダイヤルアップも開始

NECのC&Cインターネットサービスmeshが料金を改訂、サービスを追加した。料金は、専用線64Kbpsが385,000円から196,000円に、128Kbpsが385,000円から320,000円へと、東京インターネットやInfoWebと同額になった。端末型ダイヤルアップは、初期費用が30,000円から10,000円に、月額最低料金が5,400円から5,000円に、従量制は1分30円から20円になった。8月末まではキャンペーンとして月額5,000円で提供する。9月からは、企業のLAN利用者を対象とした「LAN型ダイヤルアップIP接続サービス」と個人を対象にしたオンラインサインアップサービスも追加。ISDNによるダイヤルアップは非同期57.6Kbps、同期64Kbpsに7月より対応。

問い合わせ NEC VAN販売推進本部  
TEL 03-3798-6086

電子メール info@mesh.ad.jp

### 東京インターネットがサービ スパートナーによる拡販開始

東京インターネットは、同社のサービスを販売する企業50社と「東京インターネットパートナーズ」という販売制度を作り、をサービスの拡販体制を強化した。ソフトウェア開発、ハードウェア販売、システムインテグレーターなど、各企業それぞれの技術と販売ノウハウを持ちよって協力することにより、ユーザー数の拡大とサービスのサポートを図る。

東京インターネットは4月に低料金を武器にサービスを開始し、おもに企業を対象に専用線接続、ダイヤルアップ接続を提供。5月初旬現在で50社の専用線利用者がいる。アクセスポイントは東京をはじめ、6月に横浜、8月以降千葉、大阪、名古屋にアクセスポイント展開を予定している。

問い合わせ 東京インターネット(株)  
TEL 03-3341-6301

### プロバイダー各社がダイヤル アップ用スタータキットを発売

ダイヤルアップIP接続が難しいという人向けに、ハードとソフトのセット、あるいはアカウントとソフトの設定ファイルをパックしたスタータキットが発売されている。

#### NISnet IQ+

ネットワーク情報サービス(株)(NIS)では、ダイヤルアップIP接続サービス「NISnet IQサービス」に同期64KbpsのISDNアクセスをサポートし、5月下旬からサービスを開始。この新サービスに対応したハード・ソフトのパッケージシステムを発売した。パソコンまで含んだ「完全パック」とパソコンを含まない「簡単パック」の2種類があり、それぞれISDNボード、ソフト、NISnet IQのIDが入っているが、完全パックのパソコンはすぐに使えるようにソフトがプレインストールされている。DOS/V用、

Macintosh用があり、完全パックは378,000円から。簡単パックは72,000円から。パソコンはコンパックのプロリニアやMacintoshのパワーブックなどいろいろ用意している。ISDN用のほかに、28.8Kbpsのモデム用バージョンもある。なお、6月末までに完全パックを購入すると、「NISnet IQサービス」の加入料は無料になる。

問い合わせ TEL 03-5634-3222

#### InfoSphereの

#### 「イージースフィア(EZSPHERE)」

InfoSphereを提供するNTT PCコミュニケーションズでも、ISDNを利用したダイヤルアップ用の簡単接続キット「イージースフィア」を発表した。内容は、INS64の申し込み書、InfoSphereの利用申し込み書および加入費用サービス券、ISDN用ターミナルアダプタとして沖電気工業から発売されている「PCLINK TA/DSU」、そしてソフトウェア。ソフトはWindows用に

「INTERNET OFFICE3.0J」、Macintosh用にはNetscape Navigator、MacTCP、InternetPPPやPCLINK用のCCLファイルが入っている。通信速度は38.4Kbpsの非同期まで。価格は99,800円で、個別に買い求めた場合のほぼ半額だという。

問い合わせ TEL 03-3432-1881

以上のほか、オンラインサインアップの設定ファイルを付けたCD-ROMがマコスから2,980円で発売される予定。WWWへの人気ページなども収録し、初心者ヘンターネットを解説する。ほかに日本DECでは、企業向けに、インターネットとは何かから設定まで解説したビデオ2本と各種ツールが入ったCD-ROM、ガイドブックをパッケージにして発売している。価格は初版限定1,000セットで60,000円。

問い合わせ TEL 03-5349-7261

## ロータスノーツ関連のインターネット製品発売

ロータスは、インターネットとグループウェア用プラットフォーム「ロータスノーツ」とを接続する新製品2種類を6月13日から発売する。WWWサーバー用データを簡単に作成できる「インターノーツWebパブリッシャー」と、電子メールの送受信を可能にする「ロータスノーツSMTPゲートウェイ」の2種類で、いずれもロータスノーツのコミュニケーション環境を拡大するもの。

ロータスノーツは、ネットワーク上のチームが高度なセキュリティーを維持しながらプロジェクト管理や情報収集、資料作成などの業務を効率的に進めていくためのグループウェア用プラットフォーム。今回発売する新製品の「インターノーツWebパブリッシャー」は、ロータスノーツの文書データベースにユーザーが書き込んだ文書を、

WWWのデータ記述言語であるHTML (Hyper Text Mark-up Language) に逐次自動変換するので、HTMLの知識なしにWWW用データを作成できるもの。またロータスノーツのビュー機能を使って文書の目次も自動的に生成できる。価格は750,000円。

一方の「ロータスノーツSMTPゲートウェイ」は、インターネットなどで使用されているメール送受信プロトコルSMTPをサポートしており、通常のロータスノーツのメール送受信と同じ操作でインターネットのメール送受信も可能にした。さらにMIMEもサポートしているので、漢字を含む日本語のほか、音声や画像情報を含んだメールの送受信ができる。価格は398,000円。

問い合わせ ロータス㈱インフォメーションセンター TEL03-5496-3111

URL <http://www.japan.lotus.com/>

## NECが57.6Kbps対応の低価格TAを発売

NECは、非同期57.6Kbpsの高速通信に対応したISDNターミナルアダプター「AtermIT30」を発売した。従来は38.4Kbpsが最高だった。また、80,000円を切る79,800円の低価格も実現した。自動速度整合機能や速度指定発信機能などで既存のTAやネットワークとの接続性を配慮したのも特徴。

問い合わせ NECパーソナルコミュニケーションインフォメーションセンター

TEL0120-361138



AtermIT30

## 沖電気PCLINK TAに新製品を発表

沖電気工業は、ISDN用の低価格ターミナルアダプター「PCLINK TA2A」と「PCLINK TA144」の2機種を発売した。TA2はデジタル1、アナログ2の各ポートを備えているのが特徴。また、TA144は14.4KbpsのFAXモデム機能も搭載し、通信相手に応じてデジタル通信とモデム通信を自動切り換えできる。価格はTA2Aが89,800円、TA144が118,000円。

問い合わせ 沖電気工業㈱PCLINKインフォメーションセンターTEL0120-296-007



PCLINK TA144

## 三双電機が新製品低価格のTA発売

ISDN用ターミナルアダプター専用メーカーである三双電機から、新製品「ALEX-64/HR」が発売された。INSネット64に接続して、64Kbpsの同期通信と38.4Kbpsの非同期通信を可能にするアダプターで、Dチャンネルバケット通信とBチャンネル回線交換をサポート。両モードをフロントパネルで簡単に切り換えることができる。

また、2つのアナログポートも装備しており、電話やFAXとの共用が可能。現在キャンペーン価格として84,800円で発売している。

このほか、三双電機では、INS64に対応する通信ボードタイプの「ALEX-64/Board」シリーズも発売中。こちらの標準価格は148,000円。

問い合わせ 三双電機㈱

TEL03-3667-2276

## 日本アイ・ビー・エムがPCサーバー発売

日本アイ・ビー・エムは、複数のCPUで高速にデータ処理を行う最先端技術、シンメトリック・マルチ・プロセッシングを採用したスーパーPCサーバー「IBM PC Server 720」「同320」の2機種と、これらに対応するOS「OS/2 J2.11 for SMP」などの新製品を順次発売する。PCサーバーの720は6個までCPUを増設でき、最大40.5GBの大容量ハードディスクなどによる高い拡張性を持ち、価格は2,500,000円から。同320は低価格ながら2個までCPUを増設でき、PCIバスとEISAバスに対応している。価格は780,000円から。また、このPCサーバーで稼働するOSはOS/2をSMPに対応させたもの。CD-ROMで提供され、価格は49,400円から。

問い合わせ 日本アイ・ビー・エム㈱

TEL03-3586-1111

### 松下情報システムなどが WWW用サーバーソフト開発

WWWサーバーへ従来比5倍の速さで情報入力できるインターネットサーバー用入力ソフト「ウェブデザイナー」が、松下情報システムと松下電器マルチメディアシステム研究所との共同で開発、発売された。このソフトはWWWの記述言語であるHTMLを知らなくても、マウス操作で入力画面を作成でき、レイアウト完了後に自動でHTMLデータを生成できる。また、文字や画像のレイアウトもブラウザで表示するのと同じイメージで作成が可能。さらに、オプションで検索機能や検索結果の表示機能も付加できる。価格はWindowsNT対応版が500,000円。

問い合わせ 松下情報システム(株)第五システム開発部事業開発室

TEL 06-350-3744

電子メール wave@mais.mei.co.jp

### NTT-ITが低価格の無線LAN 国内販売開始

PCMCIA無線アダプターを開発した米国プロキシム社の無線LAN「RANGELAN2」が、NTTインテリジェントテクノロジーから「SpaceTalk」の製品名で発売されることになった。この無線LANは、ローミング機能で、複数のアクセスポイント間をログインしたまま移動できることや、消費電力を抑制するスリープ機能の採用により平均100mWの低消費電力を実現したことなどが特徴。また、2.4GHz帯の無線LANとしては業界で初めて10万円を切る低価格も達成した。このほか、スプレッド・スペクトラム方式と周波数ホッピング機能の採用により高セキュリティも実現している。

問い合わせ NTTインテリジェントテクノロジー(株)インターナショナル・ビジネス・グループTEL045-651-7552

### ノベルのグループウェア 「GroupWise 4.1J」発売

ノベルはこのほど、電子メール機能やメッセージ管理機能などワークグループに不可欠な機能を標準で装備したグループウェア「GroupWise 4.1J」を発売した。このグループウェアは、昨年3月に発売したWindows対応の「WorldPerfect OFFICE 4.0aJ」の機能と操作性を向上させ、名称も一新した。電子メール機能は添付ファイルの種類、サイズ、数に制限がなく、配信、開封、削除などのステータスも一覧で確認できる。また着信確認機能も装備している。価格は「クライアント/システム管理者パックWindows版」が69,000円。複数サーバー使用の際に必要な「メッセージサーバパックDOS版」が45,000円。

問い合わせ ノベル(株)アプリケーションビジネス部TEL03-3780-0515

### 東芝も無線LANカード 「WaveCom」販売開始

東芝は、オフィス内の配線の簡略化などを実現する無線LANカード「WaveCom」を開発、販売を開始した。毎秒2Mビットの伝送速度で動作するパソコン用無線LANカードと、有線LANとのブリッジ機能を果たすアクセスポイントから構成され、小規模から大規模なネットワークまで対応できる。無線LANカードはISAおよびPCMCIAインターフェイスを装備しているため、携帯型パソコンに内蔵することが可能。また、独自のローミング技術により、ネットワーク接続中にもパソコンを持ち運ぶことができる。周波数帯域は2.4GHzで、ISMバンドを使用する。価格は無線LANカードが125,000円、アクセスポイント構成セットが350,000円。

問い合わせ 東芝(株)コンピュータ事業統括部  
TEL03-3457-8141

### 円高還元とインターネット普及 でヒューコムがモデム値下げ

ヒューコムは急激な円高差益を還元し、あわせてインターネットの普及を図ることを目的に、米国マイクロコム社製モデム「ES」の価格を大幅に引き下げた。旧定価は39,800円だったが、新定価では28,800円に引き下げたもので、さらに7月末までは特別キャンペーン価格として24,900円で販売する。ESはマイクロコム社がエンドユーザー向けに発売しているモデムの最新タイプで、業務用としてインターネットプロバイダーでも使用されている。V.34およびV.fastに対応しており、データ通信速度は28.8Kbps。データ圧縮およびエラー訂正はMNPクラス4/5/10、V.42bisに対応。また14.4Kbpsクラス2でG3のFAX機能も搭載している。

問い合わせ (株)ヒューコム  
TEL 03-5306-7333

### インテグランが米モデム会社 のインターネット製品を販売

インテグランは、新たに米国USロボティクス社との代理店契約を締結し、インターネット・プロバイダーなど法人向けのV.34モデム「Total Control」と、スタンドアロンタイプのモデム「COURIER」の販売を7月から開始する。また、米国メガヘルツ社のV.34搭載のXJACK「PCカード型ファックスモデム」の発売も7月に予定。

問い合わせ インテグラン(株)  
TEL 03-5482-6009



XJACK

## 神戸マルチメディア・インターネット協議会が発足

阪神大震災からの復興にインターネットを役立てようと、神戸市や地元企業などが参加する「神戸マルチメディア・インターネット協議会」が発足した。災害に強い町づくりの一環として、インターネット情報網のインフラ整備を推進するとともに、インターネットを通じて神戸の町、産業、企業などの復興状況を、日本国内や世界に向けて発信していくほか、インターネット・プロバイダーの誘致も図る。

阪神大震災では電気、ガス、水道などのライフラインとともに、電話やFAXといった情報ラインも寸断されて住民の間で情報不足を招いた。しかし一方では、神戸市外国語大学からインターネットを通じて被害状況が世界に向けて発信され、また国内外から支援などの情報も集積されて、情報伝達手段としてインターネットが大いに注

目された。こうしたことから、災害時にも寸断されない情報ネットワークのインフラ整備を推進し、これを通して既存産業の復興や新規産業の導入、人材育成も図ろうという目的で設立されたのがこの協議会。その最初の事業として、神戸の復興状況をインターネットで発信していく。これにより復興を側面から支援する。そして、インターネットの普及を図るため、インターネット・プロバイダーの誘致も進め、低コストでの利用を可能にしていく。さらに企業や個人への技術指導も行っていく予定だ。また、阪神大震災のデータベース化も進める。

問い合わせ 神戸マルチメディア・インターネット協議会事務局

TEL078-797-2379

## WWWを使った教育システム NTTが開発、公開へ

NTTは、WWWを利用したCAIシステムを開発した。WWWでは利用者から要求された情報をそのつど送り返すだけの働きしか規定されていないため、これまではCAIシステムのようにフレキシブルなユーザー対応には限界があった。これに対し今回開発したシステムは、WWW利用者の学習状況を遠隔のWWWサーバー上のCAIプログラムが管理するとともに、学習者の画面に表示する情報をサーバー側から制御する機構を開発して実現したもの。学習者側には特別なプログラムや教材は不要で、通常のWWWブラウザで利用できる。NTTでは今後、このシステムをインターネット上で公開していくほか、社外へのシステム提供も検討していく。

問い合わせ NTT研究開発本部

TEL03-3509-2461

## 電通がWWWサーバーで新卒採用情報提供

WWWを利用した新卒採用情報の提供を電通が開始した。

提供する情報の内容は、一般的な会社概要や最新の採用情報だけでなく、入社2年目社員の一部が自分の仕事や会社の雰囲気語る「入社2年目カタログ」や、就職活動中の学生がさまざまなハプニングを乗り越えて先輩社員のアドバイスにたどりつくという簡単なゲーム「仮想OB訪問」などもある。また、インターネット上で会社案内の資料請求もできる。今年就職活動をする学生が対象で、「.ac」あるいは「.edu」のドメインがついた大学のコンピュータからのみアクセスが可能。

問い合わせ 電通営業統括局デジタルコンプレックス室

TEL03-5551-4596

URL <http://www.dentsu.co.jp/>

## 全日空商事のオンラインショップ開始

ASAHI ネットでおなじみのアトソンが運営するWWWサーバー「MMJP」で、全日空商事直販部通信販売課によるオンラインショッピングコーナー「ANA INTERNET SHOP」が開設された。

提供する商品情報は、全日空の機内で展開している「ANA SKY SHOP」と連動した約100点。ゴルフ用品や、鞆、食品などの商品を専用のオーダーシートをクリックするだけで注文でき、支払いはクレジットカードで行う。100点の商品を集めたインターネット上の通信販売は、国内ではまだ前例がなく、インターネットのビジネス活用としても注目されている。

問い合わせ ㈱アトソン

TEL03-3666-2881 FAX03-3666-2882

URL <http://www.mmjp.or.jp/anashop/index.html>

## 世界の学校が参加する環境教育プロジェクト

外務省の外郭団体、国際協力推進協会が運営するパソコン通信ネット「APIC-NET」では、4月22日のEarth Dayを記念して、インターネット上で行う地球規模の環境教育プロジェクト「GeoTouch（ジオタッチ）」を企画した。まず、世界21か国の子供たちが自分の住んでいる地域の環境について調査・分析し、その結果をインターネット上のGopherやWWWで共有する。そして、実際に環境問題解決のために活動し、さらに、そこで学んだことを参加者全員で話し合い、「環境宣言」としてインターネットを通じ世界に向けて発表するという内容。第1期として4月22日から7月22日まで実施する。

問い合わせ APICNET事務局

TEL03-3204-8104 FAX03-3202-2414

電子メール [mikiko@apic.or.jp](mailto:mikiko@apic.or.jp)

## ネットワークにビジネス都市 インターネットプロジェクト'95

インターネット上に点在する情報の検索を容易にし、快適なコミュニケーション空間とビジネス空間を作り上げる「ネットワーク都市」の育成を通じて、インターネットについての知識や新発想を得るためのコラボレーション環境を提供しようという、ビジネスマンや起業家向けの「インターネット・プロジェクト95」が実施される。ネットワーク都市の育成を通じて体感的にインターネットを学べるほか、インターネットを使った企業活性化などのニーズに対応していくもので、実施期間は今年の7月～12月。参加費用は480,000円で、特別セミナーやコンファレンスなども開催される。東京インターネットが特別協賛している。

問い合わせ インターネット・プロジェクト95事務局 TEL03-3582-0011  
電子メール menjo@magical.egg.or.jp

## 自治体のコミュニケーションと 地域情報発進の実験サーバー

WWWを使った地域情報発信の実験的な試みを電通が開始した。将来の地域情報発信のあり方を探ろうというもので、内容は日本の「トレジャーマップ」から始まり、「94年度に掲載された全国44県の新聞広告のギャラリー」といった情報をヒントに宝探しゲームのクイズに答えていく。正解者には抽選で各県にちなんだ賞品が当たる。

電子メール loc-govt@www.inter.co.jp  
URL <http://www.inter.co.jp/Loc-govt>



トレジャーハンター

## マルチメディア・ニュース番組 「CNNコンピュータ・コネクション」

マルチメディアやコンピュータに焦点を当てた情報番組「CNNコンピュータ・コネクション」が放送開始された。毎週日曜日の30分番組で、日本での放送時間は5時30分と21時30分の2回。番組内では最新ハード/ソフトの紹介、インターネットの活用法、情報ハイウェイなどマルチメディア業界をとりまくホットな話題を多岐にわたってリポートする。

問い合わせ JCTV  
TEL 03-3405-3191



CNNコンピュータコネクションの1シーン

## PC-VANがサービス強化 28.8Kbps、WWWも予定

NECは、PC-VANの会員数が1986年4月のサービス開始以来、今年4月までの約9年間で100万人に到達したのを機会に、WWWサーバーへの接続機能の提供などマルチメディア関連の機能とサービスの強化を図る。画像や音声の利用を実現するマルチメディアサービスを求める会員からの声の高まりに対応した取り組みで、今年度上期中にWWWサーバーへの接続機能を提供するほか、今年中にCATV網をアクセス回線として利用するサービスを開始する。また、マルチメディアデータの伝送に対応して、今年中に伝送速度28.8Kbpsのアクセスポイントを東京と大阪の2か所に開設する。

問い合わせ NEC PC-VAN事務局  
TEL03-3454-6909  
電子メール NEC98881@pcvan.or.jp

## インテリジェント・パッドの 体験をインターネットで

富士通と日立ソフトウェアエンジニアリングは、ソフト部品（パッド）を積木のように組み合わせてアプリケーションソフトを構築できる「IntelligentPad（インテリジェントパッド）」の体験版をインターネットで提供する。IntelligentPadは、パッドの合成・分解・再利用により効率のかつ創造的にソフトウェアの開発・利用ができるビジュアルなソフトウェア環境で、マウスを使って画面上でパッドを並べたり、重ねたりするだけで複雑な機能を実現できる。インターネットで提供するのは、体験版と、各種サンプル、オンライン・チュートリアルなど。

問い合わせ 富士通株式会社ソフトウェア販売推進部 TEL0120-24-7301  
日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社営業部 TEL03-5443-2321

## NSGがショールーム 「SPACE VISION」

日本シリコングラフィックス（NSG）の新ショールーム「SPACE VISION」が、東京・恵比寿の恵比寿ガーデンプレイス2階にオープンした。このショールームは、グラフィックススーパーコンピュータ「Onyx」の上位モデルを常設する国内初のもの。WWWサーバー向けマルチメディアコンテンツ制作・提供のワークステーション「WebFORCE Indy」や、ビデオ・オン・デマンドなどに必要なビデオサーバー「CHALLENGE」など同社の最新主力製品も一堂に集結されている。CGフィルムショーやCGアートギャラリーなどのマルチメディアイベントも実施する予定で、これらのイベント情報は6月に立ち上げ予定のWWWサーバーでも提供していく。

問い合わせ 日本シリコングラフィックス株式会社 TEL03-5488-1834

# 専用ソフトによる環境整備と低料金で競争激化 アメリカ商用BBSの インタ-ネットサービス動向

インタ-ネットへの取り組みが一番遅れていると見られていたプロディジーが、大手商用ネットのトップを切って専用ソフトでWWWをサポートしたのを皮切りに、コンピュサーブとアメリカ・オンラインが相次いでWWWをサポート、インターネットからのTCP/IP接続も受け入れるようになって、一気にアメリカの商用ネットはインターネットとの関係を深めた。これらの動きを現地からまとめてレポートする。ただし、これらの動きは現在急激に変動しており、原稿執筆時点と読者の皆さんがこの記事を読む時点では内容が変わっている可能性があることをあらかじめお断わりしておきたい。

## 専用ソフトの一機能として WWWをスムーズに使える プロディジー

日本からアクセスする手段が国際電話以外にないため、知名度が今一つのプロディジーだが、ほかの商用ネットとは一線を画したポリシーをもち、通信販売、メディアミックスなど一般大衆向けの番組サービスをマルチメディア技術を駆使して提供している大型ネットである。

インターネットへの取り組みに関しては当初は電子メールだけだったが、今年になってほかのネットに先駆けてWWWをサポート、一気にトップに躍り出た。なんといってもプロディジーのWWWの大きな特徴は、専用ソフトの中ですべてがすんでしまうことである。特別なソフトを別にダウンロードしたりする必要がなく、単にプロディジーの中のサービスの一つとしてWWWへのアクセスができることだろう。

料金体系も、プロディジーの中の付加価

値サービスの一つと位置づけられているので、非常にわかりやすい。いつも同じ感覚でアクセスし、新しいサービスのWWWをちょっと覗いてみようか、という使い方ができる。さすがに庶民派ネットワークならではのうれしいコンセプトである。

WWWへのアクセス料金は、基本料金とは別に1時間あたり2ドル95セント必要になるが、月30時間まで30ドルという設定もできる。この30 / 30プランは、WWWだけでなくプロディジー内の他の付加価値サービスも利用することができる。現在のところ、WWWを利用できるのはWindowsユーザーのみであるが、近々Macユーザーへのサポートも開始する予定。

## WWW用ソフトを無償配布 PPP接続を低料金で提供 コンピュサーブ

コンピュサーブは、4月から、既存の会員向けにインターネットへのPPPアクセス

サービスを開始し、Windows用のWWWブラウザの無償配布を開始した。同時に専用のPPPコネクション用ダイヤラーも提供しており、これはWinCIMなどのコンピュサーブ専用アクセスソフトから設定を読み込んできて、自動的にモデムでネットワークに電話をかけてPPP接続をしてくれる。ブラウザは、今年の春にコンピュサーブ社が買収したSPRY社のAir Mosaic Expressをカスタマイズしたものを「Net-Launcher」という名前でもリリースしている。

しかしながら、このNetLauncherと専用ダイヤラーをインストールするときに気をつけないと、今まで使っていた他のPPPコネクターが一切使えなくなってしまう。PPP接続をするために欠かせないwinsock.dllというファイルがあるのだが、これはそれぞれのソフトによってみんな内容が違う。コンピュサーブのインストーラーはwinsock.dllというファイルをハードディスクの中から探

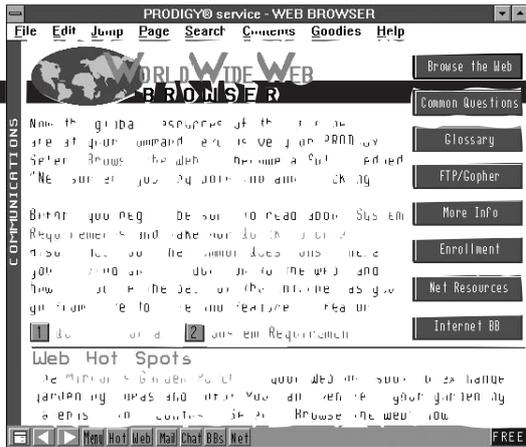


図1 プロディジー専用ソフトのインターネットメニュー



図3 NetLauncherでアクセスしたコンピュサーブのホームページ



図2 WWWに入ってプロディジーのホームページを見る

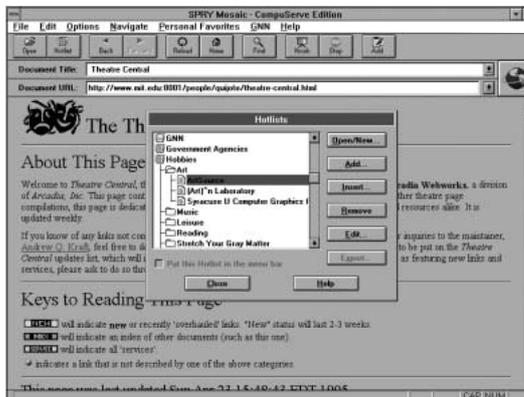


図4 ホットリストを表示

し出してすべてリネームをかけるのである。ある程度DOSの知識がある人ならば、自分で元に戻したり設定を変えたりできるが、そうでない人は今まで使っていた他のインターネットのコネクターソフトが突然使用不能になって困ってしまう。

そして、実際にアクセスしてみると、これがまた遅くてどうしようもなく、はっきり言って全く使い物にならない。ものの数Kバイトのホームページを表示するのに何分も待たされ、別のURLに行こうとすれば延々とダンマリになってしまう。試しに自分がふだん使っているプロバイダーからふだんのソフトで入ってみるとなんともないので、これはコンピュサーブのネットワークの遅さだと思われる。しかし、1分いくらでチャージしてこの遅さはたまらない。基本料金内で月3時間まで無料、以後1時間2ドル50セントという料金設定は確かに安い、いくら安くてもスピードがこんなに

遅くては結局高くついてしまう。元来コンピュサーブはCI\$と言われるほど高い料金設定でハイクオリティのサービスを提供するネットワークだったはずである。それがプロディジーやアメリカ・オンラインなどと無理な価格競争をした結果こんなに遅くて使い物にならないサービスになってしまったとしたら、進むべき道を間違えているのではないだろうか。いずれにしても、現状ではとても読者にはすすめられない。

専用ソフトのWWW対応版発表  
機能は発展途上  
**アメリカ・オンライン**

本稿を書いているアメリカ時間の5月1日現在、アメリカ・オンラインのWWWアクセスには、未だ1度としてまともにアクセスできていない。4月末にプレビューとしてソフトウェアの新しいバージョンとWWWア

クセス用のアップグレード差分、そしてWWWのホームページの提供を始めたアメリカ・オンラインだが、おそらくアクセスが殺到したことで生じた負荷オーバーにより、WWWはおろかアメリカ・オンラインそのものへのアクセスが不調となっている。もう少しシステムが落ち着くのを待って改めて詳しく報告したい。

アメリカ・オンラインでWWWを利用するためには、Windows用の2.5という最新バージョンと、WWW用のアップグレード差分が必要。いずれも専用のサポートエリアから無料でダウンロードできる。こちらもプロディジーと同じく一般のサービスの中からそのままアクセスできるが、ちょっと見ただけではあるが、自分が使いやすいようにするための細々とした設定はできないようだ。最もこれはまだプレビューなので本番になってみないとなんとも言えない。なお当面WWWへのアクセスはWindows



図5 アメリカ・オンラインの新しいインターネットメニュー

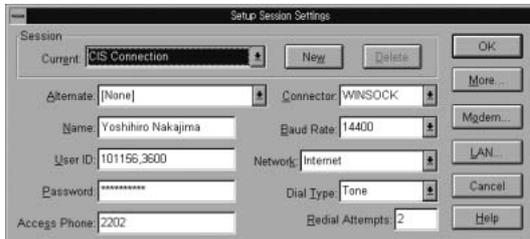


図6 WinCIM1.4をTCP/IPで使うための設定画面



図7 TCP/IP上でWinCIMを使い、コンピュサーブにアクセス

版のみのサポートとなる。

### 日本からの利用に便利な TCP/IPによるアクセス コンピュサーブ、アメリカオンライン

日本のユーザーにとってはコンピュサーブやアメリカ・オンラインによるWWWのサポートよりも有益だと思われるのが、TCP/IPによるコンピュサーブとアメリカ・オンラインへのアクセスサポートだ。手近のインターネットプロバイダーからPPPアクセスで簡単に、安価にコンピュサーブとアメリカ・オンラインにアクセスできるようになった。

まず、アメリカ・オンラインだが、Windows用のv 2.0以降のソフトウェア、またはマッキントッシュ用のv 2.5以降のソフトウェアが必要で、それぞれネットワーク設定（Windows）またはLocality（Mac）のところでTCP/IPを設定し、PPP接続をした後でアメリカ・オンラインのソフトを立ち上げてSignonすれば自動的にアメリカ・オンラインに入っていく。筆者の住むハワ

イにはスプリントネットの14400のアクセスポイントがないので、この方法が最も早いスピードでアクセスできるので重宝している。日本からでもPPP接続できるプロバイダーが手近にあれば、簡単にアメリカ・オンラインにアクセスできるので便利だろう。一方、コンピュサーブのほうは、現在のところWinCIM1.4のみのサポートである。MacCIMの最新版2.4.2でもサポートされていないので、TCP/IPでアクセスができるのは当面Windowsユーザーのみということになる。

設定は少々わかりにくい。SpecialのメニューからSession Settingsを選び、ConnectorのところCOMポートの代わりにWinsockを選ぶ。このときwinsock.dllがパスの通ったディレクトリになければいけない。この設定で、アメリカ・オンラインと同様PPP接続をしてからソフトを立ち上げて、何かオンラインに行く操作をすれば自動的にインターネット経由でコンピュサーブにアクセスすることができる。いずれにしても、安いプロバイダーを探せば国際通

信料金の大幅な節約になり、快適なアクセスができるのでぜひお試しを。

こうしてアメリカの商用ネットはますますインターネットとの垣根が低くなって便利になってきている。日本のほうは、PC-VANがWWWへ乗り入れるだの、ニフティサーブがGUIソフトを開発中だのと言われているが、本格的なインターネットアクセス環境がどうなるのか、まだ見えてこない。

（知野 明）

問い合わせ  
プロディジー

Prodigy Service Company  
電子メール info@prodigy.com

アメリカ・オンライン

America Online, Inc.  
電子メール info@aol.com

コンピュサーブ

CompuServe  
TEL 03-5471-5806（日本窓口）  
電子メール info@compuserve.com  
（米）

# 加速するインターネット市場

## INTERNET WORLD 95

### サンノゼで開催

去る4月10日から13日まで、カリフォルニア州サンノゼにてインターネットワールド95が開催された。同展示会は今年で2年目だが、出展企業が200数社、入場者数は約2万7000人と昨年の3倍以上の規模となり、活況を呈していた。本展示会は、インターネットの商業利用の開始とともに急速に発展しているインターネットの核となる技術、サービス、製品を一堂に集めた展示会としては世界最大規模のものである。展示内容では、前月にインターロップ+ネットワールドがあったせいか、ハードウェアの展示は比較的少なく、プロバイダーなどのサービス業者からの出展が目立った。



#### ハードウェアも 付加価値競争の時代へ

ハードウェア部門ではルーター、28.8Kbps + ISDN モデムなどの出展が目立っていた。ルーターでは56KbpsからT1ラインまでサポートするものが定価で1,700ドル程度で出展されており、DSU（通信制御装置）とともにレンタルされる場合が多かったルーターも、企業ユーザーへの直接販売に力が入られている様子だった。また、最高56Kbpsで接続できる40本のシリアルポートを備え、T1の接続できるルーターが、ユーザー管理ソフト付きで3,500ドルと、プロバイダーのマーケットに向けてのアピールも盛んだ。ハードウェアのメーカーは強力なユーティリティツールなどをバンドルすることにより、自社の製品により高い付加価値を与えようとしているのが印象的だった。

ISDN接続をサポートするプロバイダーが増えたせいか、個人のエンドユーザーをターゲットとするIBM互換機用のカードが、数社から300ドル台という価格で出展され

ていた。この中で、ISDNtek社の製品はすでにJADE認定が最終段階にあって、マニュアルもNTTにより日本語化されており、日本国内でも近日中に発売される予定とのこと。TAを使用せずにISAバスから直接接続できる点が注目される。

#### スタートしたばかりの インターネット関連のソフトウェア産業

ソフトウェアでは、既存のLANからインターネットに接続するためのソフトの出展が目立った。ネットウェアや社内電子メー



会場ではISDN関係の出展が目立った

ルをどうやって効率よく接続するか、また、各種TCP/IPのサービスをPCベースのクライアントから社外のIPネットワークへどう接続するかといった、現在のオフィスで一番関心のある問題に対するソリューションを提供するソフトが多数展示されていた。当然、これらの問題にはファイアウォールなどの技術も関係しており、自社のネットワークを外部から守るためのソフトも数多く展示されていた。これらの会社はこの1～2年にできた会社が多く、1人で参加しているブースも珍しくなかった。

またネットコマースの市場を意識したWebサイト管理、グラフィックHTMLエディタ、暗号化などのツールや、ホームページの付加価値を高めるツールなどもプロバイダーの間で注目されていた。

#### 競争が激化する プロバイダー市場

プロバイダー各社の出展では、まず日本でいえば第二電電的な会社がネットワークの帯域を提供するだけでなく、ドメイン名



展示会場



インターネットショッピングネットワークのブース

解読のためのバックアップシステムを提供するなど、付加価値のあるサービスを提供していた。各社の56Kbps フレームリレー（最低32Kbpsの帯域しか保証しないが、その分56Kbpsより安いサービス）は驚異的な売り上げの伸びを見せているようだ。また、本展示会初日、コンピュサーブがインターネットと接続を開始すると発表し、同社の300万人を超える会員すべてが、ホームページへのアクセス、FTPなどの機能を使用できるようになった。大手プロバイダー各社はアクセスに必要なソフトの入ったパッケージを無料配布し、1週間の無料試用期間を設定するなど、新規ユーザー獲得のために工夫を凝らしていた。

### 必要な基本技術はすべてそろった ネットコマース市場

現在ネットコマースの分野では、セキュリティの問題も技術的には一応解決し、それらの技術をどう効率よく使っていくかがこれからの鍵となるであろう。具体的には、

ハイパーテキストのエディタ、ホームページへのユーザーからの入力処理するメカニズム、課金システム、アクセスログ管理、ニュースグループやサーチエンジンを使ってのプロモーション、第三者の持っている電子メールのメーリングリストの使用、デザイン・アートワーク、総合プロダクションなどである。会場でも、それぞれの分野に特化したツールやサービスが展示紹介されていた。1社が独自の規格ですべての機能をカバーしようとするようなことはなく、モジュール化され、それぞれのレイヤーが上下のレイヤーと整合性を取りながら現在の技術と共存するといった感じだった。

コマースネットはインターネットの商用利用に関する研究開発を目的とした公益機関で、現在年間約300万ドルの予算で運営されている（そのうち半分が政府からの補助金）。この展示会の初日、コマースネットが公開鍵暗号をベースにしたCertification Authority (CA) と呼ばれる、企業間

での電子取引をより安全に行うためのパイロットプログラム（試用ではあるが、すでに利用可能）を開始したと発表した。「インターネット上のビジネスでは、その性質上、新規取引先が遠隔地あるいは国外にある場合がほとんどであるが、売り手がそれらの新規取引先を確認できるしくみを提供する点が、このプログラムの要点である」としている。具体的には、CAとなる機関（このプログラムの場合にはコマースネット）が売り手や買い手となる企業のCCITT X.509ベースの公開鍵暗号を発行・管理し、取引で発生する照会手続きを行う。CAは、

- 1) 個人またはサーバーに対して重複しない名前 (Distinguished Name) を発行する
- 2) 個人またはサーバーに対して公開鍵を発行する
- 3) コマースネットサーバーCAが認証を要求した機関のサーバーに「確認」を行う

の3つの要素から成り立っている。このCAにより、売り手と買い手のお互いの確認が可能となる。

## 確実な成長の予感

ニッチマーケットを狙ったサーチやクリッピングのサービス会社や、無料のサービスプロバイダー（彼らはユーザーが接続する際に発生する電話料金の一部を電話会社から受け取るにより運営している）など、チャンスを窺って数々の企業がインターネットビジネスに参入しようとしていた。

会期中、会場の中央にはネットワーク端末が40台ほど用意してあり、入場者が自由に利用できるようになっていた。入場者はこの端末でブラウザを使用してWebサイトにアクセスできたりした。この端末のコーナーは、いつも空気がほとんど出ないほど賑わっていた。利用者の中には、TELNETで自分の会社のシステムにリモートログインし、社内に届いた電子メールを読んで（そして急ぎのメールには返事を書いて）去っていく人が3割ぐらいいいて、「さすがアメリカ」といった感じがした。

インターネットワールドは、今回は今秋にボストンで、来年の春にサンノゼで開かれる予定だが、主要ブースはすべて出展予約が入っているという。インターネットの成長とともに、この展示会も確実に拡大していくであろうと予感させられた4日間であった。

（NICRIX/3C Research 大橋禪太郎）

## FIRST ANNUAL INTERNET WORLD INDUSTRY AWARDS

第 1 回

### インターネットワールド年間優秀賞の発表

今回のインターネットワールドでは、初日の基調演説に先立ち、インターネットワールド誌編集長マイケル・ニューバース氏から6部門のインターネット界のリーダーに「年間優秀賞」が授与された。

優秀ソフトウェア部門では、ネットスケープ社（社長ジム・クラーク氏）のNetscape Navigator 1.1が、優秀ハードウェア部門では、IBMのSOHO Assistant（ファックス・ボイスメッセージプロセッサ）とロックウェル・テレコミュニケーションズ社のNethopper（ダイヤルアップルーター）がそれぞれ受賞した。

優秀サービス部門では、3万6,000件以上のWWWサーバーに関する情報を登録し、1日に2万人以上が利用するというインターネットのオンライン情報検索システムYahooの開発者、ジェリー・ヤン氏とデービッド・フィロ氏が表彰された。

コミュニケーションツールとしてのインターネットの普及に貢献した個人・団体が対象のプロモーション部門では、情報化社会における個人の権利を擁護する非営利団体であるエレクトロニック・フロンティア財団（EFF）のスタッフ・カウンセラーでジャーナリストのマイク・ゴッドウィン氏が、また、個人表彰部門では暗号化ソフトのプリティー・グッド・プライバシー（PGP）を開発したフィリップ・ツインマーマン氏が受賞した。

すべてのカテゴリーから選ばれる年間最優秀賞には、前述のYahoo Webサーバーが選ばれた。

\*ネットスケープ・コミュニケーションズ社 <http://home.netscape.com/>

\*IBM <http://www.ibm.com/>

\*ロックウェル・テレコミュニケーションズ <http://www.rns.rockwell.com/>

\*Yahoo <http://www.yahoo.com/>

\*エレクトロニック・フロンティア財団 <http://www.eff.org/> FTP <ftp://ftp.eff.org/>

\*PGP <http://draco.centerline.com:8080/franl/pgp/pgp.html>



会場の中央に設けられたネットワークキオスクの利用者

## ネットマネージ ジャパン株式会社設立記者発表 来日したズヴィ・アロン会長に聞く

Interview : 編集部



アロン会長（左）とガイズラー取締役（右）

ネットマネージ社は、ウィンドウズマーケットの拡大とインターネットの普及とともに急成長した、米国カリフォルニア州クパチーノに本拠を置くソフトウェア開発企業。アメリカの代表的な経済誌『フォーチュン』4月17日号でも、昨年度に急成長を遂げた全米の企業の中で第3位にランクされている。

インターネット関連では、Windows 3.1向けに、接続用プロトコル・スタックとアプリケーションのパッケージである「カメレオン」を日本でも昨年より出荷している。

5月中旬、同社の日本法人である「ネットマネージ ジャパン株式会社」の会長に就任されたズヴィ・アロン氏、取締役のダン・ガイズラー氏と、社長の脇山弘敏氏に編集部がインタビューを行った。

編集部：まず、日本法人を設立した目的について、おうかがいしたいのですが。

今回の日本法人設立の目的は、大きな市場拡大が見込める日本で一般ユーザーへのサポートを充実させることです。日本では、これまで3社（住友金属、フォーバルクリエイティブ、ネットワンシステムズ）の販売代理店に当社のソフトウェアを販売していただいていたのですが、今後とも良い関係を保っていきます。もちろん、新しい流通チャンネルも開拓して販路を拡大していくつもりですが、各代理店がビジネスを拡大するための支援も心がけたいと思います。代理店にとってはネットマネージ社のソフトウェアは数多くあるソフトウェアの1つで

あるわけですが、われわれは自社のソフトウェアだけを販売しているのですから。

たとえばエコー（ECCO）のようなソフトウェアは、小売り向けのソフトウェアなのですが、残念ながら、現在のところパソコンショップでは売られてはいませんからね。（アロン会長）

日本の代理店では、企業ユーザーをターゲットにしてきたわけですが、われわれはそれを個人ユーザーにまで広げたいのです。

また、ネットマネージジャパンでは、ユーザーのサポート体制の充実、ソフトウェアの日本語環境を整備するための準備、広告・トレードショー、キャンペーンなどによるマーケティングも行っていく予定です。

（脇山社長）

編集部：ネットマネージ社では、日本でも無料でカメレオンサンプラーを配布なさっていましたが、それは今後も続けられる方針ですか？

個人ユーザーの拡大という意味からも、それは続けていくつもりです。製品版とは当然異なるわけですが、常にバージョンの新しいものを提供していきたいと思います。

（アロン会長）

それは、当社のソフトウェアのマーケットを拡大するだけでなく、より多くの人々がインターネットを使うチャンスを提供するという意味でも大事なことだと考えています。

（ガイズラー取締役）

編集部：ネットマネージ社のソフトウェアのアメリカにおけるマーケットシェアはどのくらいですか？

1993年度のデータでは、当社のソフトウェアは出荷総数で全米の10パーセント、2000万ドルの販売額を記録しました。これが今では6000万ドルに達しようとしています。競争相手も5000万～6000万ドルから9000万ドルへと売り上げを伸ばしていますが、数字を比べると、当社がマーケットのシェアをかなり伸ばしていることがわかるでしょう。

それに、われわれの競争相手というのはウィンドウズ用以外のソフトウェアも販売しているわけですから、ウィンドウズに限っていえば、当社が一番のシェアを持つのではないかとと思っています。（アロン会長）

編集部：その成功の理由は何だとお考えですか？

わが社がこれほど成功した大きな理由は、ユーザーからの要望をよく聞き、必要ならばすぐに改善を施すと同時に、サポートにはできるだけ速やかに駆けつける、という姿勢を示したことだと思います。（アロン会長）

編集部：Windows 95では、プロトコルスタックがOSに標準機能として組み込まれることになっています。これについて、ネットマネージ社としてどのような対策をお取りになるのでしょうか？

そのことで、いろいろ意見を求められることが多いのですが、私としては1つ強調しておきたいことがあります。それは、当社の収益の95パーセント、あるいはそれ以上は、スタック以外のソフトウェアから得られたものだということです。ユーザーのほとんどは、スタックがほしいからというよ



左からアロン会長、脇山社長、ガイズラー取締役

り、アプリケーションの魅力で当社の製品を求められるのです。当社もマイクロソフトのスタックを使うことがありますし、Windows NT用のスタックは持っていませんからね。ポイントは、アプリケーションの使いやすさ、接続の速さ、ということだと思いますし、Webの次の段階というものがやってくると予想されます。マイクロソフトのようなOSメーカーでは手の回らない部分は、当社のようなサードパーティーが補っていくのだと思います。

そのような先行開発のために、100名を超えるエンジニアが研究にあたっています。エンジニアにとっては常に興味のある最新技術に携わり、多くのユーザーがそれを使ってくれることが一番のモチベーションになっているのです。（アロン会長）

編集部：オンライン認証のプロトコルなども開発なさっているのでしょうか？

確かにそれは、いまとても関心の高まっている分野ですね。ですが、WWWブラウザにしても、オンライン認証のプロトコルなどのセキュリティ技術にしても、いまのところ誰も特定の製品・技術にコミットはしていません。まだまだ技術開発の競争は続いているのです。認証プロトコルなどは、当社が開発することも技術的には可能なのですが、ビジネスとして見た場合、銀行などからのバックアップが必要なのです。この分野に最も興味を示しているはずの銀行

でさえ、どれかの技術に支持を表明しているところはまだ1つもないのです。もし、この技術が標準化されることになったら、おそらく当社が真っ先に飛びつくことになるでしょう。（アロン会長）

編集部：ネットマネージ社ご自身の将来像、目標は何でしょうか？

ネットマネージ社の将来の目標は「最大の売り上げと利益を誇る最小の企業」ということです。現在の社員は500名ほどですが、当分はそれくらいの規模で推移することだと思います。（アロン会長）

編集部：ところで、どうしてソフトウェアに「カメレオン」という名前をつけたのですか？

それについては、裏話があるのです。ネットマネージ社の最初の製品に、どんな名前をつけようかと技術者と相談したときに思いついたのがNEWTS（Netmanage Enhanced Windows TCP/IP Stack）だったのです。翌日の会議で発表したときに、「NEWTSの（NEWTS's）」と発音するのが難しくて問題になったのです。そこで、私はオフィスに戻って、「これじゃだめだ」と言ったのです。そこで1人のエンジニアが、最後のSを取ればいいと提案しました。このNEWTというのは「いもり」という意味なのです。それで、次の製品には「カメレオン」とつけたのです（笑）。ほかにもSWIFT（小トカゲ）という製品もあるんですよ。（アロン会長）





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)